

大型蒸気ドラムを出荷

長船製で最大級

1月8日、インドネシア・タンジュンジャティBの3号機ボイラ（石炭焚66万kW）向け大型蒸気ドラムをボ工二課から出荷した。

全長33^m・総重量317^tの本

蒸気ドラムは、長船で製作したドラムの中でも最大級であり、2005年に完成したタイBLCP向け以来、久々の大型蒸気ドラムとなる。

製作にあたり、ボ工一課の自動化設備とドラム製作ラインをフル活用し5分割で製



ボ工二から出荷される蒸気ドラム

作、ボ工二課のクレーン能力を利用し一体化を行い、完成させた。

最後は、150^tクレーンと200^tクレーンの共吊を行い、300^tを越える大型ドラムを無事発送した。

二工作部全体の力を注ぎ、完成させた大型ドラムである。

インドネシア・タンジュンジャティ（66万kW×2）

4号機のボイラ立柱安全祈願祭

計画より10日早く

1月5日、インドネシア・タンジュンジャティB石炭焚火力発電所で、昨年10月の3号機に続いて4号機のボイラ立柱安全祈願祭が行われた。

この工事は、電力需給が逼迫するジャワ島において、既設1・2号機に続き3・4号機（66万kW×2）を拡張するもので、当社は亜臨界圧ボイラ設備を供給する。

お客様である住友商事株がEPC*を取りまとめ、完成後は同社現地法人CJP社が所有、同国国営電力公社のPLN社が運転・保守する。

11月以降の長い雨季にもかかわらず、計画より10日早い立柱に、お客様をはじめ関係者一同喜びを分かち合うとともに、来月に予定されている3号機の蒸気ドラム揚げに向けて一丸となって工事を安全第一で進めるべく決意を新たにしました。

* EPC：「Engineering, Procurement and Construction」の略で、設計・調達・建設を一括して請負う契約。



建設が進むタンジュンジャティ現地



現地関係者の皆さん